

年 頭 の ご 挨 拶



公益社団法人
鹿児島市薬剤師会 会長

谷 口 欣 平

新年明けましておめでとうございます。

鹿児島市医師会の先生方におかれては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、私ども薬剤師会の会員が各面においてたいへんお世話になっておりますことに、心からの感謝とお礼を申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、5月に元号が改まり“令和”の時代が始まりました。10月には即位礼正殿の儀、11月には祝賀御列の儀があり、わが国の伝統の重みとたくさんの皆さんの新しい時代への期待が感じられました。

一方、去年は大きな災害があった年でもありました。長崎県や佐賀県を中心とした九州北部の豪雨災害、台風15号・19号とそれに続く豪雨により、首都圏を含め関東・東北・信越地方などの広範囲において多くの尊い人命が失われたほか、家屋浸水や流失、農業などにおいても甚大な被害が発生しました。また、10月末には世界遺産の首里城が焼失しました。災害への備えは早めに、万全を期さなければならないとの思いをしたところです。

ところで、今夏はわが国でオリンピック・パラリンピックが開催され、10月には国体が本県で開催されます。選手には正々堂々の競技を通じてスポーツの素晴らしさ、人間の持つ可能性を示してもらいたいと思っております。薬剤師会としても国体会場において、少しでもお役に立てるよう協力してまいりたいと考えております。

さて、わが国は少子高齢化の進展が世界で最も早い国として、対応に世界の耳目が集まっているようですが、予想を超える社会保障費

の増大・財政の逼迫を見据え、医療費・介護費の負担や健診のあり方などの見直しも行われるようです。また、2025年地域医療構想に関しては、医師会を中心に関係団体等において、二次医療圏単位で医療提供体制についての協議が鋭意なされております。

「高齢者がどこに住んでいても、その人にとって適切な医療、生活支援、介護などのサービスが受けられる社会の実現」という目標を達成するためには、医師や薬剤師、介護支援専門者等が連携して取り組む「地域包括ケアシステムの整備」は避けて通れません。

私ども薬剤師にも、薬物治療だけでなく、医療連携の中で地域にお住まいの方々のライフステージを通じての役割を求められていることから、予防の視点を持ち、かかりつけ薬局・薬剤師、健康サポート薬局を目指しているところでございます。これからも、「おくすり整理そうだんバッグ」を活用した入退院時における連携やCKD患者に対する薬薬連携など、市医師会の先生方のご協力をいただき、連携を密にしていきたいと思います。

医療を取り巻く状況には今後とも厳しさが続くと思われますが、引き続き医療三師会の一員として先生方のご指導をいただきながら、薬剤師サービス水準の高度化に努めてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

むすびに、市医師会の先生方のますますのご健勝、ご活躍をご祈念申し上げまして新年の挨拶とさせていただきます。